エコハウスプロジェクト

「被災地のコミュニティー復活のために」

被災地支援施設建設プロジェクトもりおか実行委員会　平成24年３月

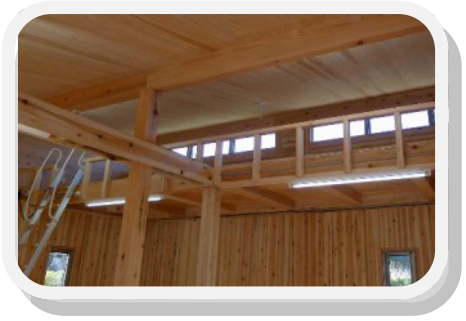
　このたび，陸前高田市の泊地区に「いこいハウスとまり」が完成し，３月18日（日）に寄贈させていただきました。昨年12月の「エコハウスやまだ」，「エコハウスおおつち」に続き，３棟めの「エコハウス」です。

　今回の施設をもって，事業が完了いたしました。ご支援いただきました関係各位に謹んでご報告いたしますとともに，ご支援・ご協力をいただいた皆様に改めて感謝を申し上げます。

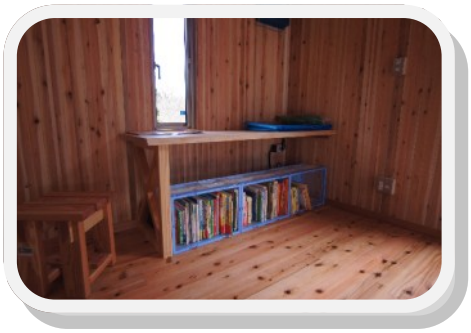
３月18日（日）「いこいハウスとまり」にて
（左から）晴山実行委員会副委員長，戸羽陸前高田市長，
藤原泊振興会会長，谷藤実行委員会委員長

☆事業のあらまし

　未曾有の被害をもたらした東日本大震災の沿岸被災地復興支援の一つとして，山田町，大槌町及び陸前高田市の意向を踏まえ，環境配慮型のミニ集会施設としてエコハウスを建設しました。この取組みは，東海大学が大船渡市越喜来地区に建設した「どんぐりハウス」のコンセプトを継承し，「もりおかエコライフ2011」実行委員会からの寄附，盛岡市からの負担金及び多くの企業・団体・個人からの協賛により実現の運びとなったものです。

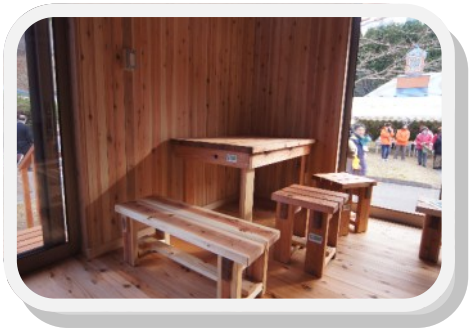


エコハウスには多目的のロフトも設置



「3.11絵本プロジェクトいわて」から寄贈された絵本

電気を使わないエネルギー自立型のペレットストーブ（「エコハウスやまだ」「エコハウスおおつち」に設置）



市産材を使用したテーブルセット

☆建物の概要

　建物は，木造平屋建て，延べ床面積９坪（「いこいハウスとまり」は15坪）で，主な特徴は次のとおりです。

＊市産材及び震災廃木材を再生した復興ボードを使用し，増改築や解体，建て替えが容易な工法となっています。

＊ソーラー発電・蓄電システム，ペレットストーブ，LED照明など環境に配慮したエネルギー自立型の施設となっています。

＊イベント協賛企業から遮熱材，リサイクルガラス造粒砂の提供をいただきました。また，ボランティア団体から，建物を飾るリースや絵本の寄贈をいただきました。

「いこいハウスとまり」

泊振興会藤原直美会長と戸羽太陸前高田市長にご出席いただき，３月18日(日)に現地において完成式典を開催しました。

式典では，谷藤盛岡市長からの挨拶ののち，藤原会長から謝辞を，戸羽陸前高田市長から祝辞をいただきました。

式典後には，慈恩禅寺境内で，東日本大震災による犠牲者の追悼の念を込め「永井の大念仏剣舞」」の踊りを披露いただいたほか，いこいハウスとまり前広場において，泊振興会婦人部による豚汁の炊出しや絵本のプレゼントなど盛りだくさんのアトラクションで，多くの皆様に楽しんでいただきました。

「いこいハウスとまり」前で地区の皆さんと記念写真

「いこいハウスとまり」位置図

「いこいハウスとまり」全景

「盛岡市産材を使った看板を掲げています

祝辞を述べる戸羽陸前高田市長

式典にはたくさんの地区の人たちが参加しました。

慈恩禅寺境内で，東日本大震災による犠牲者への追悼の念を込め，「盛岡市永井の大念仏剣舞」を披露していただきました。

泊振興会婦人部のみなさんが炊き出しを実施しました。

たくさんの地区の方に集まっていただきました

戸羽太陸前高田市長からのお礼の言葉

このたびは、この泊地区に素晴らしい「いこいハウスとまり」を寄贈くださいました盛岡市をはじめとする支援プロジェクトや関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。また、谷藤盛岡市長さんには、市長会の会長としても会の先頭に立ち、被災地支援に尽力いただいておりますことに、重ねて感謝申し上げます。

「いこいハウスとまり」の建設地である、ここ泊地区は、およそ230世帯の漁村でしたが、先の震災で多くの家屋が流失し、今では150世帯余りとなり、住民の多くが家族、友人といった大切の人を亡くしたうえ、家屋や財産を失っております。昨年3月末には地区の自治公民館の完成を祝う落成式の準備も進んでおりましたが、完成直前の建物が津波で流され、全壊したと伺っておりました。

今、多くの地区でコミュニティが崩壊、喪失しております。これをどのように回復していくかが復興の上で大きな課題となっております。

このような中、盛岡市から自治公民館の建設の話をいただき、泊地区の自治公民館を再建したいという地元の強い要望が寄せられ、ここに「いこいハウスとまり」の寄贈を受けましたことは、単に住民の交流拠点としてだけでなく、地域の絆を深める上でも大きな役割を果たすものであると考えております。

市全体でみますと、ようやく復旧から復興へ向け歩みを始めたばかりです。これから皆さんとともに「まちづくり」が始まります。市民が一丸となって「まちづくり」に向けて知恵を出していかなければなりません。そのためにも、市民の生活再建をどのようにデザインしていくか、災害復興計画を策定し着実に取り組んでまいりますとともに、必要とあれば、岩手県、国へさらなる支援を要望し、皆さんとともに新しい陸前高田市をつくりあげてまいる所存でございます。

引き続き、ご臨席のみなさまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、「いこいハウスとまり」の完成式典の挨拶とさせていただきます。

「エコハウスおおつち」

佐々木彰大槌町副町長にご出席いただき，昨年12月11日(日)に現地において完成式典を開催しました。

式典では，晴山副実行委員長（町内会連合会会長）及び谷藤盛岡市長(細田副市長代理出席)からの挨拶ののち，碇川町長(佐々木副町長代理出席)から謝辞をいただきました。

式典後には，山田町と同様に，炊き出しや絵本のプレゼント，リースづくり講習会など盛りだくさんのアトラクションで，多くの皆様に楽しんでいただきました。

また，料理研究家でテレビリポーターとしてもおなじみの千葉星子さんが駆けつけ，手づくりのひっつみ，おしるこ，甘酒の振る舞いをしていただきました。

「エコハウスおおつち」全景（奥は小槌第４仮設団地）

「エコハウスおおつち」位置図

ロフトから見たエコハウスの様子

炊き出しの振る舞いやシャンプーセットの配布など，たくさんの人たちに集まっていただきました。

「Waのまちもりおかリースプロジェクト」によるリース作教室

「3.11絵本プロジェクトいわて」による絵本のプレゼント

大槌町役場職員の皆さんとともに炊き出しを行なった千葉星子さん

大槌町役場職員と盛岡市役所職員が
エコハウスをバックに記念写真

碇川豊大槌町長からのお礼の言葉

この素晴らしいエコハウスを寄贈してくださいました盛岡市長をはじめ、支援施設建設プロジェクトに協賛された方々の温かいご厚意にお礼申し上げます。

また、寒い中お集まりいただいた町民の皆様や地域活動を支えるボランティアの方々に厚くお礼申しあげます。

三月十一日発生した東日本大震災により、我々の生活は様変わりいたしました。町民の多くが、家族や友人といった大切な人々を亡くしたうえ、生活の拠り所である家屋や財産も失ってしまいました。

避難所生活から仮設住宅の生活に移った現在も、生活の再建に向け模索する日々が続いております。

こうしたなか、清掃事業所上流にある二つの仮設住宅団地で待ち望まれていた談話室を建築していただいたことにより、被災住民の交流の拠点として地域の絆を深める大きな役割を果たします。

また、このエコハウスは、自ら電力を生み出し、蓄えることによって、温もりのある光源と生活家電への動力をもたらします。

それは、我々の次のステップ目標である、生活再建を果たし自立する姿を指し示す復興のシンボルでございます。

終わりに、町では、本年中に災害復興計画を取りまとめ、着実に復興に取り組んでまいる決意でございます。引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げまた、皆様方のご健勝を心から祈念いたしまして完成式典の謝辞とさせていただきます。

「エコハウスやまだ」

沼崎喜一山田町長にご出席いただき，昨年12月6日(火)に現地において完成式典を開催しました。

式典では，実行委員長である谷藤盛岡市長からの挨拶ののち，沼崎町長から謝辞をいただき，お二人で「エコハウスやまだ」の看板を掲げ，硬い握手を交わしました。

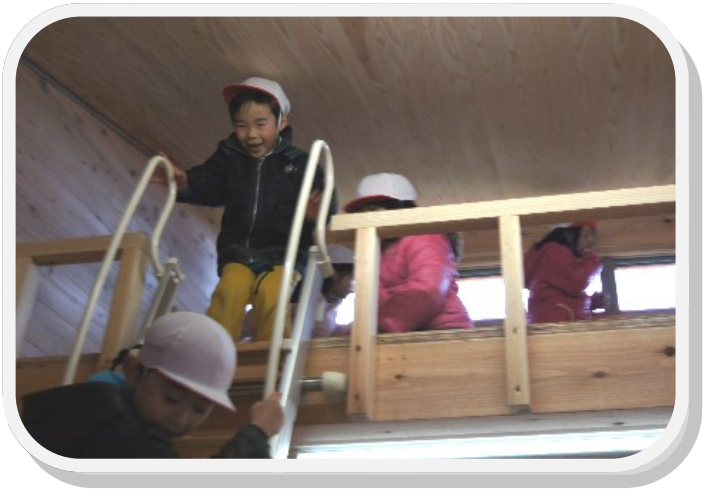
また，式典後には，ひっつみの振る舞いや3.11絵本プロジェクトによる絵本のプレゼント，リースづくり講習会など盛りだくさんのアトラクションで，多くの皆様に楽しんでいただきました。

谷藤実行委員長から沼崎町長へ「エコハウスやまだ」の引渡しを行いました。

エコハウス位置図

「エコハウスやまだ」全景

「Waのまちもりおかリースプロジェクト」によるリース製作教室



エコハウス内のロフトで遊ぶ子供たち

「3.11絵本プロジェクトいわて」の読み聞かせの様子

施工業者（昭栄建設）のスタッフがひっつみなどの
炊き出しを行いました。

たくさんひっつみを食べてくれました。

山田町派遣の３人の盛岡市職員も駆けつけました。

沼崎山田町長からのお礼の言葉

「エコハウス山田」完成式典にあたり、町民を代表いたしまして一言、御礼を申し上げます。

三月十一日の大震災・大津波によりまして、本町は甚大な被害を蒙りましたが、県内外の皆さまからの物心両面にわたる多くの支援、励ましをいただきました。盛岡市の皆さまからも、義援金、支援物資のほかにも、被災者の内陸部避難に際しては、ホテル等におきまして懇切丁寧なお世話をいただき、被災者の皆さまからの感謝の声が私にも届けられております。

また、復旧のための膨大な行政需要に対して、滞りがちな役場機能を維持するために、長期にわたり市の職員を派遣していただいております。

加えて、本日より、被災地支援施設建設プロジェクトもりおか実行委員会の皆さまの善意により完成した「エコハウスやまだ」を利用させていただくことができました。心から感謝申し上げます。

発災以来、早くも九カ月を迎えようとしております。被災者の皆さまは、仮設住宅に移られましたが、これから厳しい冬を迎えることになります。部屋に閉じこもり孤立することなく、地域のコミュニティを確立して支え合うためにも、この場所が心の拠り所になるものと思っておりますし、近くにはボランティアセンターもありますので、ボランティアの皆さんとの交流拠点となるものであります。

重ねて、本事業を推進していただきました実行委員会に結集されました個人、団体、企業の皆さまに御礼を申し上げ、挨拶といたします。

ありがとうございました。

■ 建設関係者（順不同：敬称略）

株式会社結設計　昭栄建設株式会社　創造ホールディングス株式会社　株式会社サニックス　株式会社テス東北
石村工業株式会社　株式会社西條工務

■ 協賛（順不同，重複あり：敬称略）

〇設計・施工

株式会社結設計　昭栄建設株式会社　創造ホールディングス株式会社　株式会社サニックス　株式会社テス東北
株式会社三協テック北東北　橋爪商事株式会社　株式会社ホクエツ東北岩手営業所

〇その他設備など

宮古ボード工業株式会社　岩手県森林組合連合会　岩手大学農学部　関野登教授　株式会社三協テック北東北
一般社団法人環境マテリアル推進協議会　岩手大学農学部付属寒冷フィールドサイエンス教育センター
Waのまちもりおかリースプロジェクト　3.11絵本プロジェクトいわて　マテリアルリソーシング東北株式会社
日本たばこ産業株式会社盛岡支店　NPO法人いわて森林再生研究会　サンポット株式会社岩手営業所
気仙郡漁業協同組合連合会

〇協賛金

もりおかエコライフ推進イベント実行委員会　日本蚕糸学会　盛岡レオクラブ・盛岡ライオンズクラブ
学校法人龍澤学館　いわて生活協同組合　東日本機電開発株式会社　八幡はしご酒祭り実行委員会ほか一社
個人２名

〇イベント協賛

昭栄建設株式会社　株式会社春の隣　株式会社ベルプラス ビッグハウス　株式会社吉田産業盛岡支店
盛岡石油株式会社　株式会社ワキタ　株式会社東北工商　セイナン工業株式会社　有限会社藤喜建設
丸モ盛岡中央青果株式会社　株式会社中野製麺　有限会社小林工業　岩手ヤクルト販売株式会社　株式会社北州
新日東鋼管株式会社　株式会社岩手マイタック　日本たばこ産業株式会社盛岡支店
Waのまちもりおかリースプロジェクト　3.11絵本プロジェクトいわて

■ 被災地支援施設建設プロジェクトもりおか実行委員会名簿

委員長	谷藤　裕明	盛岡市長
副委員長	晴山　貞美	盛岡市町内会連合会　会長
監　事	中崎　和久	岩手県森林組合連合会　代表理事会長
委　員	山本　信次	岩手大学農学部付属寒冷フィールドサイエンス教育センター　准教授
委　員	杉本　洋文	東海大学工学部　教授

山田町中心部（平成23年12月13日撮影）

大槌町中心部（平成12月12日撮影）

陸前高田市高田松原の「一本松」
（平成24年３月18日撮影）

広げよう 支援の輪

被災地支援施設建設プロジェクト
もりおか実行委員会事務局
（盛岡市役所環境企画課内）
〒020-8531
盛岡市若園町2番18号
TEL：019-626-3754
FAX：019-626-4153